

第1回大山崎町男女共同参画計画懇話会 議事録

日 時

平成 28 年 8 月 31 日 (水)

開会 午前 10 時 00 分 閉会 11 時 45 分

場 所

大山崎町役場 3階 中会議室

議 事

- (1) 委員長・副委員長の選出
- (2) 大山崎町男女共同参画計画について
 - ① 懇話会の趣旨説明
 - ② 「大山崎町男女共同参画計画ーみとめ愛プランー」の取組み状況
- (3) 今後の予定等について

出席委員

委 員	有 馬 誠 司
委 員	石 田 由 紀 子
委 員	石 原 祐 次
委 員	上 田 幸 代
委 員	幸 山 由 佳
委 員	篠 田 清 子
委 員	津 田 庸 子
委 員	濱 田 浩 志
委 員	林 俊 介

事務局

教育長、生涯学習課長、生涯学習・スポーツ振興係長、
生涯学習・スポーツ振興係員

議 事 内 容

- 1 委員長・副委員長の選出
委員長 石原 祐次
副委員長 濱田 浩志
- 2 大山崎町男女共同参画計画について

① 懇話会の趣旨説明

② 「大山崎町男女共同参画計画ーみとめ愛プランー」の取組み状況

(事務局から説明)

- 3 今後の予定等について
- 4 意見交流

<委員> 育児休業からの復帰には、大きな不安がありました。

出産前は常時長時間の勤務でしたが、子育てをしながらこれまでと同じように働くことは難しいと感じます。業務は多岐にわたり、時間内に収めることは困難です。管理職や職場の仲間、家族等、周囲の協力と理解が必要です。家族や職場に感謝しています。家庭では、夫の協力が増えました。

<委員> 事務局の報告を聞いて、これまで行っていた「放課後の取組み」が改めて大切なことだとわかりました。

男女共同参画について、身近なところから変えていかなくてはと思います。

<委員> 自身の子育ては終わり、委員として何ができるだろうか？と考えていましたが、男女共同参画は、高齢者の生きがいなどについても係わりがあることがわかりました。

「平等」については、普段から心がけています。また、男性も暴力に困っている場合があります。

孫の面倒を見ていますが、祖父母の協力なしに女性が働き続けることは困難です。どうしてこんなに大変なのかと思います。保育料も高く感じます。

<委員> 20代の頃は忙しく、妻に子育てをまかせていました。

「学校」と「学童」に分けて妻と役割分担をしましたが、学童の保護者会は女性が主な構成員で、周囲の方々の夫に対する愚痴がまるで自分に言われているようでした。しかし、学童では、積極的に父親の参加を呼びかけることで父親の参画が増えてきました。

母子会はありますが、父子会は無いように思います。楽しみながらやっ払いこう、父同士の横のつながりや交流を大切にしていこう、と考えています。男性には男性の悩みがあると思います。

<委員> 親子の集まりにおいて、男性が子どものお世話の仕方がわからないとおっしゃっていました。これまでは、男女で固定的な役割分担がされてきたように思います。

スポーツへのかかわりについて、男女で意見が分かれている姿を見かけます。どちらかが間違っているわけではないと思います。

歴史勉強会などの目的のあるクラブ活動では、男性も女性も子どもも高齢者も、色々な主体が皆平等に尊重され、教えあい、とても居心地がいいです。目指すところはここかな？と思います。

<委員> 二山校区は父親同士のつながりが強いと感じます。スポーツ少年団でも父親の活躍を聞いています。

育児休業から復帰してすぐの4月1日に仕事があると、大変に思います。4月後半から復帰開始の企業もあります。

女性に育児と家事の両方がのしかかっていると感じます。男性の参画が必要です。自身を振り返って、キャリアに対するビジョンが持ちにくいように思いました。今後、女性が活躍できる社会を望みます。

また、ソフトボールの大会で男女混合チームが出場するにあたっては、加点する等の工夫が欲しいと感じています。

<委員> 組織の中で、男性も女性もそれぞれ活躍する場面があるように思います。無理に一緒に、というのは難しいように思います。

商工会では男性が多い商売のため、会議の構成員も男性が多く、男性が会議等に出ている間は、商店は女性が守っています。夫婦が気持ちを言い合えることが大切に思います。

子どもが病気の際は従業員が休むこともありますが、理解し協力していきたいと思います。この会議で学んだことを会社にも還元したいと思います。

<委員> 共働きで、夫婦で協力してきたつもりですが、妻には負担をかけていたと思います。学童の催しやスポーツの団体等には、できるだけ一緒に参加するようにしていました。

今では両親の介護が必要になりましたが、結果的には妻や娘が主に担っています。自分が出来ることを探し、助け合いをしています。

子育てを行う世代が肩身の狭い思いをしないように願います。居心地のいい職場作りのためには、組織でカバーすることが大切に思います。

なお、職場で育児休業中の職員には、情報提供や面談を実施しています。

(事務局から報告)

5 閉 会